



歌合巻
 七夕
 十九



七夕哥合

文明九年七月七日



題

秋色七夕

折草花

晴窗月

款空為意

不憑意

山家雨

砌下五松

作者

左

女房

式部以邦高親王

入道親王為永

仁和寺法親王但當時細川高國法名号道永九條殿下
季子永正間為管領政元家嗣然親王号如何

前左大臣室

入右左大臣と大将藤原公教女 洞院

権大納言藤原季春 字通

按察使藤原親長 丹波守

勾當内侍 飛多井一位女

参議左大臣権中將藤原季経 権本

藏人右大臣権中將藤原季隆 字隆

右

右大臣

安禪寺官

光胤法親王 提井

入道前左大臣女

内大臣

権大納言藤原教秀 觀修寺

従二位藤原高清 海住山

参議右大臣藤原量光 柳原

左大臣権中將藤原為房 朝臣

右大臣権中將藤原實家 朝臣

判者 禪院

流こさん恨もあ〜と侍の女あ〜と侍もあ〜と
早のち〜と松山乃流は〜と侍り又〜と
てふ事〜と侍りあ〜と侍りあ〜と侍り
あ〜と侍りあ〜と侍りあ〜と侍り
又〜と侍りあ〜と侍りあ〜と侍り
てふ乃〜と侍りあ〜と侍りあ〜と侍り
ぬち〜と侍りあ〜と侍りあ〜と侍り
らん〜と侍りあ〜と侍りあ〜と侍り
左〜と侍りあ〜と侍りあ〜と侍り

三番

左 指

入道親玉を氷

〜と侍りあ〜と侍りあ〜と侍りあ〜と侍り

右

竟流法親玉

人あ〜と侍りあ〜と侍りあ〜と侍りあ〜と侍り
手向は〜と侍りあ〜と侍りあ〜と侍りあ〜と侍り
さ〜と侍りあ〜と侍りあ〜と侍りあ〜と侍り
そや〜と侍りあ〜と侍りあ〜と侍りあ〜と侍り
と侍りあ〜と侍りあ〜と侍りあ〜と侍りあ〜と侍り
わ〜と侍りあ〜と侍りあ〜と侍りあ〜と侍り

四番

九 勝

あ方大屋室

あ〜と侍りあ〜と侍りあ〜と侍りあ〜と侍り

右

入るあ方大屋女

あ〜と侍りあ〜と侍りあ〜と侍りあ〜と侍り
人あ〜と侍りあ〜と侍りあ〜と侍りあ〜と侍り
あ〜と侍りあ〜と侍りあ〜と侍りあ〜と侍り

いひおかせくばし侍り又晴しれ衣なりふとらんも
くはく侍り松山乃多とつる番より侍り
とひさふ侍りてハ必浪のこもへやうよや由本秋の心
よおまへ侍りたまたまふとや侍らん

乙番

左勝

入るお方を大お藤原公教女

まゝふこふいへてや晴し何もの夜も志しかなほむ
右 内大臣 公教女

ほあひ乃やまの河原いせの海乃神代のむいおまひ世
右あつめのまふいひとまふ思ひ入るふ乃侍りぬ
うや右神代のむいハ天照太神乃そこのまのまふ
あふの八十河原をつとてあそい侍りし侍りぬ
と星合うも伊勢乃海も侍りぬ事よ侍りぬ

ふもまふてハ侍り侍り星合乃海とりつおのまふ
侍りてま子細あま事よやまより侍りてま
侍りてま侍りてま侍りてま侍りてま侍りてま
ま侍りてま侍りてま侍りてま侍りてま侍りてま
ま侍りてま侍りてま侍りてま侍りてま侍りてま

六番

右お

檀大納言藤原季春

檀大納言藤原教秀

ほあひ乃やまの河原いせの海乃神代のむいおまひ世
右あつめのまふいひとまふ思ひ入るふ乃侍りぬ
うや右神代のむいハ天照太神乃そこのまのまふ
あふの八十河原をつとてあそい侍りし侍りぬ
と星合うも伊勢乃海も侍りぬ事よ侍りぬ
ふもまふてハ侍り侍り星合乃海とりつおのまふ
侍りてま子細あま事よやまより侍りてま
侍りてま侍りてま侍りてま侍りてま侍りてま
ま侍りてま侍りてま侍りてま侍りてま侍りてま
ま侍りてま侍りてま侍りてま侍りてま侍りてま
又天川いへてま侍りてま侍りてま侍りてま侍りてま

つらねのこころをいかにいかに
乃ちもやもやとてはれはるる
そはらぬむらさきもいかに
とまらぬてはれはるる

二十番

左 お

右 當内侍

あはれはるる秋の雪乃もの

右

實真翁尼

あはれはるる秋の雪乃もの
らぬとものや
つらねのこころをいかに
乃ちもやもやとてはれはるる
そはらぬむらさきもいかに
とまらぬてはれはるる

二十一番 晴夜月

左 孫

入道親王

清見のこころをいかに

右

實真翁尼

あはれはるる秋の雪乃もの
乃ちもやもやとてはれはるる
そはらぬむらさきもいかに
とまらぬてはれはるる

二十二番

左 孫

おちた屋室

二五

野々々い回らる人こころまじく思ふゆれ

二十五番

左

教書に

才よ今あら乃く重のあつあつとちてまや久月おりて時

右

号光に

あけきこやうあふれあふれよとちろ乃くまの月や又あつて
たあ後乃くまのなうらんたうとあかつくあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

二十六番

左

句當内付

秋風乃あつちの重とくらあつてあつてあつてあつてあつてあつて

右

為廣教に

みまふこは乃くあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
いのちとちあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
ゆれこつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
てあつてあつて

二十七番

左

實隆朝に

こころいこころいこころいこころいこころいこころいこころいこころい

右

教書に

月乃こころいこころいこころいこころいこころいこころいこころい
杜子羨り詩に斫却月中桂清光應更多と作れり
極とこころい月の光とあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

難きことやたはらひていふもあはれなりとてあはれにや侍る
あはれにや侍るもあはれにや侍るもあはれにや侍るもあはれにや侍る

三十三番

左持

邦之歌

あはれそのあはれにや侍るもあはれにや侍るもあはれにや侍る

大

内大臣

あはれそのあはれにや侍るもあはれにや侍るもあはれにや侍る

あはれ

三十四番

左お

女房

あはれそのあはれにや侍るもあはれにや侍るもあはれにや侍る

大

入道おたまたま

あはれそのあはれにや侍るもあはれにや侍るもあはれにや侍る
たはらひていふもあはれにや侍るもあはれにや侍るもあはれにや侍る
と下の白きい思ひをたあや侍る人たはらひていふもあはれにや侍る
あはれそのあはれにや侍るもあはれにや侍るもあはれにや侍る
あはれそのあはれにや侍るもあはれにや侍るもあはれにや侍る

三十五番

左持

邦之歌

あはれそのあはれにや侍るもあはれにや侍るもあはれにや侍る

大

おたまたま

あはれそのあはれにや侍るもあはれにや侍るもあはれにや侍る
あはれそのあはれにや侍るもあはれにや侍るもあはれにや侍る

右

言真氣尾

山にてもあはれもたふしあはれぬふしの事なりたる
あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる
あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる
あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる
あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる

五十八番

左

邦書親尾

あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる
あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる
あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる
あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる
あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる

右

お廣氣尾

あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる
あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる
あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる
あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる
あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる

五十九番

左

親長親尾

あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる
あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる
あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる
あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる
あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる

右

竟流江親尾

あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる
あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる
あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる
あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる
あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる

六十番

左

入道親尾

あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる
あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる
あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる
あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる
あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる

右

あ方方尾

あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる
あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる
あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる
あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる
あはれもたふしあはれぬふしの事なりたる

五—三九、六の五松ちと集るんあうひうり乃墓七十九り
あう光のむ乃をまもりも君美代の書おあう八目と
い—二年とたうやヤゆらん

六十四番

左 務

入道親をる永

唐清こむ乃みまりの池水は母のうとん松のこ—

右

量史に

うほ—うあ君うとむらの松風やをてま平のあうらうらん
うほ—うあ君乃松あ—い—うと二—あてこ
—侍うあやそちとせのあう—事—母
かきん—い—うらめ—く—ゆり

六十五番

左 務

邦 言親を

清さうたみまら乃松あうんとい—美代の書お—あ—

右

き清に

あまた—平の書と—あ—あ—あ—あ—あ—
い—美代乃書おるぬ—ん—あ—あ—あ—あ—
—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—
く—優劣と—あ—あ—あ—あ—

六十六番

左 務

勾當内侍

ほ—い—たち—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—

右

内大臣

あ—い—乃—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—
左ハ郭々書乃松陰—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—
あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—

よき人よき人にして指しん

六十七番

九巻

女房

信じて一重の井の松乃とてまじりて

右

為廣期片

みづのやまれくわしむもはとあひあひ乃松のゆきま
とて指し一重の井乃松乃うち乃人のいひ
あひあひに津製衣とやとりませられ侍らしあうた
とていふもふんくわりもも南河乃津中あひ
とおもひやられ侍れと先渡をかまてうらそおもひ
つと侍る

押し十八公お乃ちらのまじりてあひあひ
嵐乃庭の落葉を唐を物とてあひあひ
侍るあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
らふあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
らん右の号乃是非は沙流よとらに左の侍りて
あひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

六十八番

九巻

女房

おろもあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

右

幸胤法親王

いほくぬきわ乃松よたらあれと子代万代乃あひあひあひ
子代万代のあひあひあひあひあひあひあひあひあひあひ

あまのり小耳にまらしてゆるたの結句も破ハとあまのり
さよふや

六十九番

たお

さる陸船尾

あまのりやさるふたさるねえの縁そされいろよかろふ

た

あたまに

いにしへの産のまゆ乃らあひあらん言じといふかねさゆりぬ

た乃ことりそそのまゆさうらうた言じを巖書るそ

ゆりぬさうもふゆゆ〜くゆゆゆ

七十番

た勝

あたまに室

あ代乃あうりいよとあまのりやあ年ふまの産乃あうえ

た

安福さ言

よく風とあまのりあ代よまうなるあをさるた乃ねよちあ人

たああ代と子年といあか〜すのやうはゆれと

よあいにねねあまのりあまのりいさいつちあせの信〜

あまんとあまのりあまのりあまのりあまのりあまのり

あまのりあまのりあまのりあまのりあまのりあまのり

あまのりあまのりあまのり

一巻のおくお志海この二ひう三ひうあまのりあまのり
ほ〜あまのりあまのりあまのりあまのりあまのりあまのり

あまのりあまのり

あまのりあまのり

あまのりあまのり

あまのりあまのり

あまのりあまのり

あまのりあまのり

あまのりあまのり

あまのりあまのり

こゑくはよきぬの いちくはよきぬの 人を
にまらふに 二巻をせまふ つらむい、左ありしと
あううへも 一の巻をせまふ 丸かふ乃多けきむを
あふあふ一 あふあふはせよ あふあふの やあふあふ
さひうう 二巻をせまふや はらうう舞 二巻をせまふ
あふあふ一 あふあふはせよ みる一巻ふ 人のあふやい
あふあふ一 あふあふはせよ やあふあふ乃 葉乃庵一
あふあふ乃 衣の玉を かけまくと 一巻をせまふ
あふあふ一 あふあふはせよ まきまくと 難波乃浦の
あふあふ一 あふあふはせよ まらまくと 二巻のあふれ
あふあふ一 あふあふはせよ つらむい、思ひがけい
あふあふ一 あふあふはせよ みるまくと 人のあふりる

あふあふ一乃 森のくらをせまふ ひろいあつえとあふのあふれ
あふあふ一乃 森のくらをせまふ かくとあふらあふ

七十六光祢覺惠奉 勅獻判詞而已

左

右

- | | | | |
|-------|--------|---------|-------|
| 女房 | 勝三員一持三 | 前左大臣 | 勝三員持三 |
| 邦高親王 | 勝三員二持二 | 安祿寺宮 | 員四持三 |
| 入道乃永 | 勝三員一持三 | 竟胤法親王 | 員二持五 |
| 前左大臣室 | 勝六員一 | 入るあふあふ女 | 員二持五 |

卷之四

三

入道前大納言女勝二員持四

内大臣

員四持三

季のまゝに 勝三員一持三

教秀に

勝一員四持二

親由に 勝一員一持五

之清に

勝二員五

勾當内侍 勝一員一持五

量光に

勝一員四持二

季経に 勝三持四

為廣朝臣

勝二員四持二

之隆朝臣 勝二員一持四

実真朝臣

員二持五

